

令和7年度 学 校 評 価 報 告

草加市立川柳小学校

(令和8年2月3日作成)

1 学校教育目標 ・かしこく（進んで学ぶ子） ・なかよく（明るく思いやりのある子） ・たくましく（健康でたくましい子） 【目指す学校像】 「子どもたち一人ひとりを大切にし、笑顔と夢あふれる川柳小」 ・全ての子供に力をつける学校（主体的に学ぶ力の育成） ・よさを認め、伸ばす学校（自己肯定感・自己有用感・他者理解） ・安心安全で潤いのある学校（すべての子供が居がいを実感）	
2 重点目標・努力目標 ○学校経営重点目標 ・主体的な学びを育む授業づくりの推進 ・学力（読む、書く、聴く）、体力の向上 ・学習規律の徹底・家庭学習の習慣化 ・安心・安全な学校環境づくりの推進 ・いじめ、不登校対策の徹底 ・心の教育の推進・充実 ・幼保小中を一貫した教育の推進	3 前年度の成果と課題 成果 ○校内課題研修において、授業実践を重ね、学習過程の重点を意識した指導・評価の工夫を授業に取り入れた。 ●長欠児童や不登校児童を減少させることができたが、今後もさらに関係機関との連携を図り、組織的に対応する。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○学校経営目標や目指す学校像の実現に向けて、業務の精選など、校務改善を図りながら、運営することができた。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○本年度、草加市教育教員会委嘱の研究発表に向けて、国語の指導力向上を目指した。外部講師の指導のもと、自己肯定感・自己有用感・他者理解の育成に組織的に取り組んだ。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○健康観察を行い、健康状態を把握するとともに、感染症の予防に努めた。 ○危機管理マニュアルを見直し、草加警察の指導のもと不審者訓練を行い、危険事態に備え、避難訓練を行った。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○規定に基づき、個人情報の管理を行っている。 ○日々の安全点検等で明らかになった危険箇所は、即対応することができた。 ●施設の老朽化に伴い、計画的な環境整備が必要である。
	⑤地域との連携開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	A	○各種たよりやHP、情報連絡システム「すぐーる」を活用した地域や家庭への情報提供、配信を心がけた。 ○学校運営協議会を定期的で開催し、学校の様子を伝えたり、学校経営への助言を頂いたりした。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○近隣の幼稚園・保育園と交流給食を実施し、入学への期待感を高めることができた。 ●幼保小中を一貫教育に向け、各校、園と連絡調整を行い、計画を立てていく。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○PDCAサイクルを行い、児童の実態に応じた1時間の授業の流れを示した学力向上プランを作成した。 ○業務改善を踏まえた、日課表の見直しを行った。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○各学級、各教科の進捗状況を毎月確認し、確実な授業時数を確保した。 ●児童の学力向上につながるよう授業改善していく。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○教育活動全体を通して指導を行い、教職員の指導力向上を図ることができた。 ●家庭への啓発し、充実した道徳教育が行えるよう働きかける。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○授業者とALTとが連携を図り、充実した授業を行えた。 ○高学年では教科担任が授業者となり、専門性を生かした質の高い授業を行えた。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○兄弟学級での異学年交流を通して、互いに成長する場面が見られた。 ●児童の自主性を育むための活動となるよう計画していく。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○AIドリルを導入し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な実現を行った。
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導委員会を中心に組織的な対応・情報共有及び発達支持的生徒指導を行うことができた。 ○教育支援室、児童相談所、SC、SSWなど、関連機関と適切な連携を取りながら、進めることができた。
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリアパスポートを活用し、成長を振り返らせ、家庭と連携しながら確認することができた。 ●学級活動や総合的な学習の時間と関連させながら進めていく。
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育コーディネーターを中心に、就学相談や支援を計画的に行うことができた。 ●一人ひとりの児童の実態を踏まえ、個別の指導計画を作成・実施・改善を行い、家庭にフィードバックし、連携を深める。
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○校内での読書に関するイベントの実施や、ボランティア・担任による読み聞かせ等を通して、読書に親しむ機会を設けられた。 ●家庭での読書習慣が身に付くように、家庭との連携を図っていく。
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○日常的にタブレット端末や大型テレビを活用した授業の実践を行った。 ●情報モラル、ネットリテラシーなどタブレット端末利用のきまりについて、検討していく。

⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○人権研修会や出張報告を通じて、全教職員で人権問題について共通理解を図った。 ●各教科と関連付けながら、人権教育の充実を図っていく。
-------	--	---	---

(様式1・小学校用③)

草加市立川柳小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	①すべての人にやさしい児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート ・組織的な学校運営 ・開かれた学校づくり 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学校だより・校長講話を通年で通し、「やさしさ」について、くりかえり伝え続け、教職員が一丸となって、組織的に児童の豊かな心の育成を行った。
	②自ら学ぶ児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修の充実 ・国語科指導力向上 ・各種学力調査 ・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○他者理解が深まる文学的な文章の学習を通して、学ぶ喜びを味わわせる授業づくりを行った。 ●各種学力調査において、一人ひとりの伸びが見られたが、県市内平均において、更なる伸びが今後期待できる。
	③いじめ、不登校対策の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・発達支持的生徒指導 ・組織的な生徒指導 ・保護者、地域、諸機関との連携 ・児童生活アンケート 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちとの信頼関係を築いた中で、の生徒指導、組織的な対応・情報共有及び発達支持的生徒指導を行うことができた。 ●長欠児童や不登校児童を減少させるために、関係機関との連携を図りながら組織的に対応していく。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

・保護者向けの学校評価アンケートでは、昨年度と同様の回答数となり、19の質問項目のうち、昨年度9項目が一昨年度よりも上回り、本年度もさらに9項目において上回った。質問全体の回答率を平均してみると、昨年度大きく変化することなく肯定的な回答問全体を占めていた。また、「お子様は、楽しく学校に通っていますか」の質問に対して、97%肯定的な回答が得られた。しかし、我が子に関する質問に関しては、他項目と比較すると低い傾向にある。特に、家庭における読書に関しては課題が見られる。

・業務改善を行い、働き方改革を進めることで、職員が元気に働ける職場環境づくりができた。

6 次年度の改善策

・学力の定着を図るための授業改善、必要に応じたICTの効果的に活用と個別最適な学びとなるAIドリルを活用した学習指導をさらに強化していく。

・長欠児童や不登校児童の固定化・長期化が課題であり、引き続き関係機関と連携しながら、組織的に対応していく。

・業務改善をし、働き方改革を進めていくことで、教職員が元気に働ける職場環境づくりをしていく。それぞれの教職員の役割を自覚し「働きやすさ」と「働きがいのある職場」づくりを行う。

・家庭学習・家庭での読書習慣が身に付くように、家庭学習の手引きや懇談会での保護者への啓発をしていく。